

# 光化学スモッグの流跡線解析

## テレメーター室

### 要旨

一般に大気汚染の短期予測手法として流跡線を用いる方法が有力である。流跡線を自動的に作成する手法とその実例については既に報告した。<sup>1)~2)</sup>

ここではその適合性について、地上風および地上300 mでの風との対応を検討した結果、埼玉県を中心とする

地域での適合性が良く実用性があることが分った。

気団の移流速度を地上300 m程度とし、地上風速を1.5倍した場合の気団中の $\bar{O}_x$ 濃度変化予測図の1例を示す。(Fig 1~3参照)

(第17回大気汚染研究全国協議会発表)

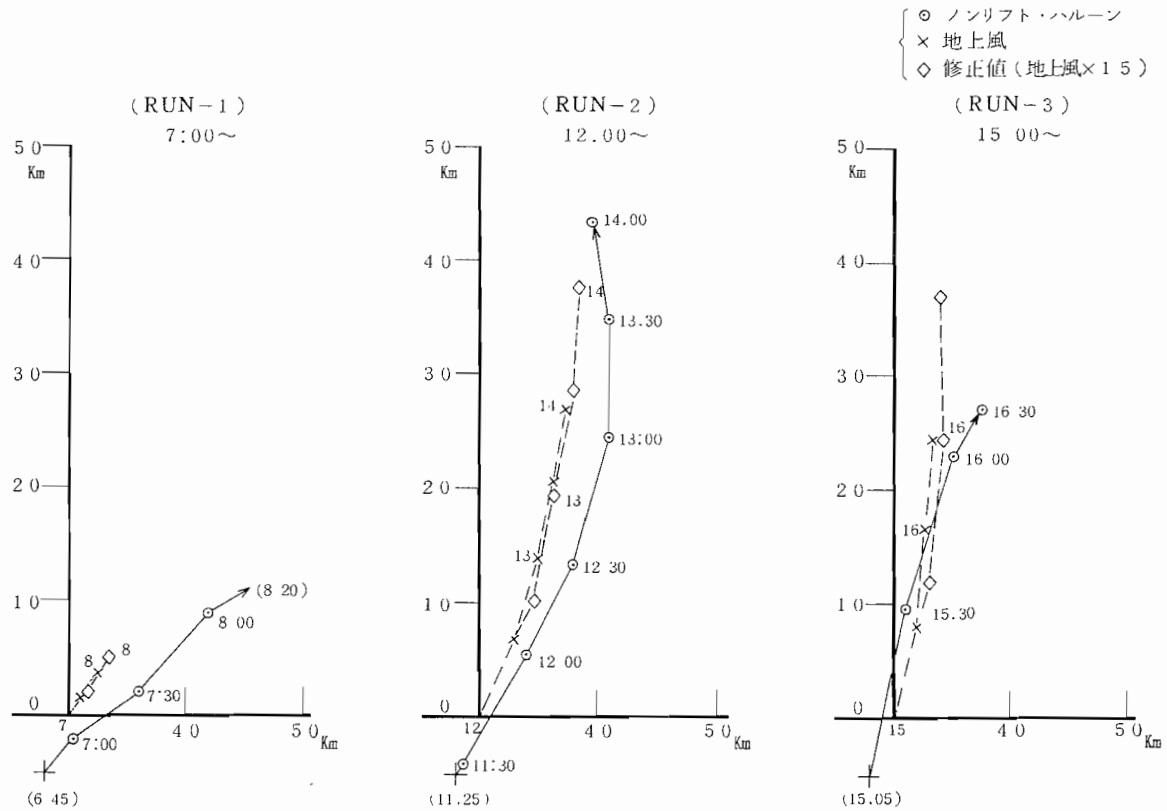


Fig 1 高度300 mおよび地上流跡線(昭和51年8月5日)

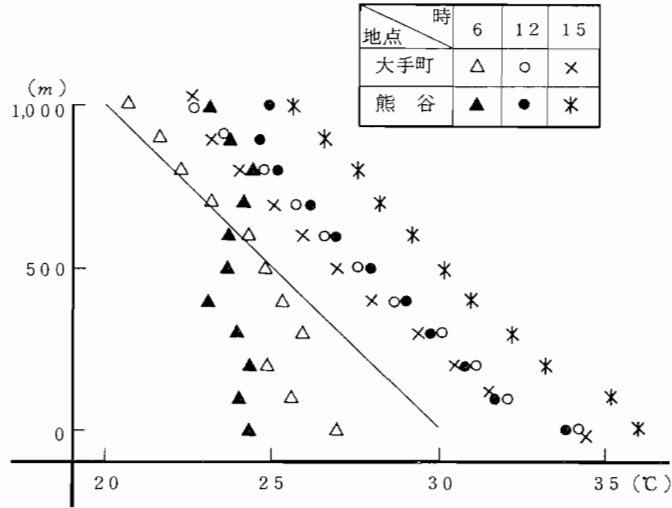


Fig2 気温の鉛直分布 (5185)

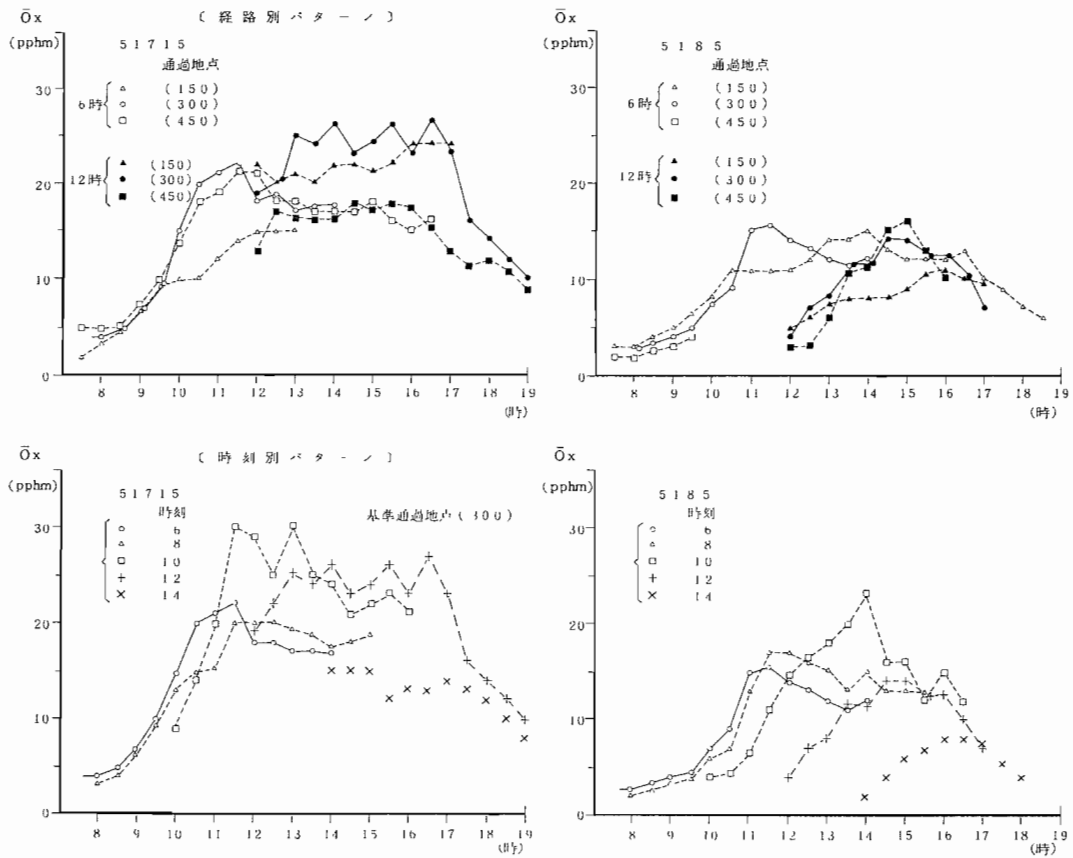


Fig3 流跡線上のオキシダント濃度変化

参考文献

1) 埼玉県公害センター：光化学スモッグ広域立体調査

報告書、昭和49年、昭和50年

2) 第15回大気汚染研究全国協議会発表、424